

名蔵湾保護水面管理事業調査（要約）*

杉山 昭博

本調査結果についてはすでに「昭和61年度名蔵湾保護水面管理事業調査報告書」（沖水試資料No. 98）で報告したので、ここでは調査内容と結果を要約して記載する。

1. 目的および内容

水産動植物の繁殖保護育成のため海草藻場を保全し植物の繁茂、底生動物と葉上動物の分布、アイゴ類幼魚の藻場における成長、保護水面周辺海域での定置網漁獲量、既設人工礁での魚類等の蛸集状況および水質の各調査を実施して藻場における生態的メカニズムを把握することに努めた。

2. 要約

(1) 藻場の季節的变化を把握するために定点で海草の生育範囲と密度を調べた。そして、夏季もっとも良く繁茂して保護水面に占める割合は14.7%になり、全体の平均は約87,000 m^2 、12.8%である。また湾口部が湾奥部に比べて藻場の変動の大きい傾向がみられた。

(2) 1986年7月9日と12月5日に底生動物調査を行い線虫類、定在目、遊在目、および端脚目が多くみられた。

(3) 1986年4月28日から1987年2月16日まで隔月1回葉上動物の調査をして遊在目と端脚目は周年みられ、また長尾類も比較的多くみられた。

(4) アイゴ類幼魚の藻場における成長を前年度と同様に調査し、シモフリアイゴとアミアイゴでは前年度とほぼ類似した成長がみられた。

(5) 昭和59年1月から61年12月までの名蔵湾における定置網漁獲量調査を行い年間漁獲量は20トン、主要漁獲物はコノシロ類、サヨリ類、カマス類、ヒメジ類、ハタ類、メジナ類、クロサギ類、ミナミクロダイ、フエフキダイ類、フエダイ類、アジ類、ベラ類、アイゴ類、ハリセンボン類、およびイカ、タコ類で、年間漁獲物の30%以上はアイゴ類が占める。

(6) 1986年7月15日に人工礁調査を行い約17種類、200個体の魚類等が蛸集しておりヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイ、ロウニンアジ（幼魚）、およびミツボシクロズメ等が比較的多くみられた。

(7) 1986年4月30日、7月14日、10月7日、および1987年1月7日に水温、PH、比重、DO、COD、 PO_4-P 、 NH_4-N 、 NO_2-N 、 NO_3-N 量を調査した。結果は前年度とほぼ同様である。

*：水産資源保護対策事業